

# 平成元年度 和歌山県文化奨励賞

たに ぐち ただ つぐ  
谷 口 維 紹

住 所：大阪府茨木市

出 身 地：和歌山県有田郡清水町

生 年：昭和23年

## ◎業績及び経歴

県立耐久高等学校卒業後、東京教育大学理学部生物学科に進み、昭和46年卒業。昭和53年にスイス・チューリッヒ大学大学院博士課程卒業、分子生物学を研究し、理学博士を取得。同年より、ヘルシンキ大学カンテル教授に出会い、ウイルス抑制剤であるインターフェロン(IFN)の研究を開始する。帰国後は、癌研究会癌研究所を経て、大阪大学細胞工学センター教授となり、現在に至る。

癌やウイルスなどから生体を防御する免疫応答系を中心とした様々なシステムが機能するため、リンパ球などの細胞の増殖や分化を調整するIFNやインターロイキン(IL)等「サイトカイン」と呼ばれる一連のホルモン様分泌タンパクの必要性が、近年明らかになってきた。

谷口氏は、昭和54年、世界に先駆けて抗ウイルス、抗腫瘍作用を持つIFNの全構造を明らかにし、昭和58年には、免疫応答系の中心的役割を持つインターロイキン(IL)のうち、Tリンパ球の増殖を促すIL-2の全構造を明らかにした。また、昭和63年、IFNの生産を防御する遺伝子の構造とIL-2の細胞内シグナル伝達を行なう物質の構造を世界に先駆けて解明した。

これら一連の研究は、サイトカインの存在を分子生物学的手法により、構造と機能を明らかにし、大量生産の道を開くものであり、癌や免疫の基礎及び臨床研究に新しい可能性をもたらす先駆的な研究として、文化の発展に大いに寄与した。